



瀬戸小だより

ふれ合う 認め合う 共に学ぶ 笑顔あふれる瀬戸ヶ谷小学校

mail:y3setoga@edu.city.yokohama.jp

学校だより 12月号
令和5年11月30日
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校
校長 松永 淳子
TEL 713-8336 FAX 713-9749

瀬戸ヶ谷小学校

検索 

食育を通して育みたいこと

校長 松永 淳子

街を歩くと赤いポインセチアが花屋さんの店先に並び、イルミネーションが美しく寒空に映える季節になりました。今年のカレンダーも残すところ一枚となり、時間の過ぎ去る速さを感じます。気ぜわしさの中にも年末、新年を迎える準備に心が浮足立ち、新たな気持ちにさせてくれます。校庭では子どもたちが、いつものように元気に遊んでいる姿が見えます。

さて、ある日の給食に関わる数字です。「3人」何だと思われませんか？答えは給食メニューの全校の残量を合わせた数値です。瀬戸ヶ谷小学校の全体の残量が3人分だったという数字なのです。メニューは子どもたちが「大好き」といってあげる一つ「カレー」の残量になります。カレーに限らず、本校の子どもたちはよく食べる傾向にあります。とても素敵なことだと感じています。

2005年に制定された食育基本法の前文では「食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基盤となるべきものと位置づけると共に、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進する」また、「子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基本となるものである」と記されています。瀬戸ヶ谷小学校では、給食の時間、準備から片づけを通して、「食」に関する知識や健全な食生活を実践できるよう発達段階に応じた指導を続けています。また児童会の給食委員会の活動に「食育隊」があり、委員会の子どもたちが、朝の時間各教室に出向き「好き嫌いなく食べよう」という今年度のテーマに沿った紙芝居、寸劇、クイズを出し全校の子どもたちに呼びかけています。これは、食べたいものや好きな食べものを増やしていこうという願いが込められています。そのような取り組みが積み上がり、よく食べる子どもたちに繋がっているのだと感じています。また、先日のもぐもぐ通信（給食の時間子どもたちに向けたお便り）では、「とにかく食べてみよう、チャレンジしてみよう」という内容で子どもたちに伝えていました。食を通していろいろなものに挑戦してみようという気持ちが育てばという内容を発信していました。

その一方で、「孤食」「個食」「固食」「子食」全て「こしょく」と読みますが、順に「食事を一人で食べること」「家族が同じ食卓についても別々のものを食べること」「好きなメニューばかり食べること」「子どもだけで食べる食事のこと」を意味します。現代を象徴するような「食」に関する課題のように感じています。給食の時間はこれらのことを解決できる時間でありたいと願っております。年末、年始の休みは家族の生活リズムも揃い、多くの方々の会食の機会が増える時でもあります。「共食」の時間を通し豊かで心温まる時間が少しでも増えることを願っております。

少し早いご挨拶になりますが、2023年本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りありがとうございました。穏やかな新年となりますよう祈念いたしております。

